様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月　 ８ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７３０１３８

研究課題名（和文）破綻国家における平和構築と国家建設に資する一次産品のグローバル・ガバナンス

研究課題名（英文）The global governance of primary commodities helpful to peacebuilding and statebuilding in failed states

研究代表者
妹尾　裕彦（SEO, Yasuhiko）

千葉大学・教育学部・准教授

研究者番号：７０４５１７３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：主にカカオと石油という一次産品のグローバル構造をめぐって、以下の研究成果を得た。第一に、カカオの生産・流通・加工・消費をめぐる国際的な諸動向と、そこに内包されている構造や論点について、バリューチェーンの視角から分析した。第二に、カカオの主産地であるインドネシアにおいてカカオ産業が直面している危機と今後の変容の方向性を、歴史的視角から解明した。第三に、石油の生産および消費に関する超長期的な見通しとその意味するものについて、シェール革命を踏まえた分析を行なった。

研究成果の概要（英文）：I studied the global structure of primary commodities, especially cocoa and oil, and obtained the following results. First, I clarified some international trends in the production, distribution, processing, and consumption of cocoa and also analyzed related issues and the structure of these trends from the value chain perspective. Second, I investigated the crisis and transformation of the cocoa sector in Indonesia, the world's third largest cocoa producing country, from a historical perspective. Third, while considering the shale revolution, I elucidated the ultra-long-term prospects of oil production and consumption in the world and analyzed its implications.

研究分野：発展途上国政治経済論、一次産品経済論、紛争と開発

キーワード：カカオ　石油　一次産品

１．研究開始当初の背景

冷戦後の国際関係における主要テーマの一つに、破綻国家の出現／存在と、そこでの平和構築・国家建設という課題がある。破綻国家とは、別の角度から言えば、「開発の失敗」と捉えられるべき発展途上国でもある。

この「破綻国家の出現／存在と、そこでの平和構築・国家建設」という課題をめぐるテーマ（以下では「このテーマ」と略す）に関わる先行研究は、次の３つのタイプに大別される。すなわち、

(1)国家の破綻または脆弱化に関する研究（紛争・内戦など）、

(2)紛争や人道的危機への国際社会の対応に関する研究（保護する責任・人間の安全保障など）、

(3)紛争や人道的危機から脱した国々における再生に関する研究（平和構築・国家建設など）、

である。

研究代表者も、これまでこのテーマに関する研究を、多角的に進めてきた。まず、破綻国家の出現論理や、破綻国家への国際社会の介入・対応策について検討してきた。また、世界システム周辺部の国のうち、なぜ一部の国においてのみ「開発の失敗」が生じたのかに関しても、考察してきた。この問いに対しては通常、その国のガバナンスの悪さが指摘されることが多い。しかし、ある国のガバナンスが悪いからと言って必ず国家が破綻するわけではない。また、当該国のガバナンスという一国的な要因を強調する議論は、当該国の経済発展を阻害したり、当該国の破綻に影響を与えているグローバルな要因を軽視してしまう、という欠点があった。

２．研究の目的

そこで本研究は、《「開発の失敗」をもたらしているグローバルな政治経済的要因を除去・改善する対応を図ることなしに、破綻国家の再生は困難だ》という認識に基づき、既存の破綻国家論・平和構築論では省みられにくい「国家の破綻・脆弱化の予防と、破綻国家の再生を促す一次産品のグローバル・ガバナンス」を探求することで、平和構築と国家建設への一助となることを目指した。

３．研究の方法

本研究は、「国家の破綻・脆弱化に大きな影響を及ぼしている一次産品の生産・輸出とその結果得られる収入に関して、幾つかの問題点が存在しているため、これらの問題点を除去・改善しうる一次産品のグローバル・ガバナンスが形成されなければ、平和構築と国家建設は強固なものたりえない」、という認識から出発する。

これらの問題点の除去・改善のためには、多様な一次産品の特性に応じたグローバル・ガバナンスが求められる。そこで本研究では、検討すべき一次産品として、鉱産資源から石油を、熱帯産農産物からカカオを取り上げる。その理由は２つある。第一に、両者がともに一次産品のなかでも国家の破綻・脆弱化に重要な位置を占めているからであり、第二に、いずれについても、研究代表者の既存の研究成果を発展的に活かせるからである。以下では、カカオと石油とに分けて、研究方法を述べる。

まずカカオについて、研究代表者はこれまで、カカオと同じ熱帯産一次産品農産物であるコーヒーについて、その生産・輸出および国際的な流通や消費動向、そしてコーヒー危機をもたらした要因の連関構造とそのアフリカ諸国への政治経済的影響などを把握してきた。そこで本研究では、この研究成果を比較参照しながら、対応する論点についての探究を進める。また、カカオ豆の種別の価格動向とその特性、カカオの国際的な流通メカニズムと価格設定メカニズム、各種カカオ豆の産地間競争などについては、研究成果を公表する段階に至ってはいないものの、既に予備的ながら調査・研究に入っている。そこで本研究では、これらに関する調査・研究を引き続き進める。その際、入手にやや手間取っているカカオ関連の統計資料の収集にも注力しつつ、探究を深めたい。また、主要なカカオ産地でのヒアリング調査も、適宜行なう。

また石油について、研究代表者には、既に「資源の呪い」についての研究成果があり、そこでは石油に絞って、資源の呪いを克服する上での方向性を３つ打ち出している。そこで本研究では、近年の世界石油産業の構造変化を踏まえながら、この３つの方向性を詳細に掘り下げることで、石油をめぐるグローバル・ガバナンスの実現に向けた方策を探ることとしたい。

４．研究成果

以下のような成果を得た。

第一に、世界３位のカカオ生産国であるインドネシアの北スマトラ州に足を運び、カカオ農家を訪問するなどして、ヒアリングを含めた現地調査を行なった。インドネシアおよびこの地域では近年、カカオ生産が衰退傾向にあるが、今回の調査によって、衰退の原因や農家の直面している課題、さらにカカオから他作物（アブラヤシ）への転換動向等について把握することができた。とくに農家が価格に敏感に反応しながらカカオからアブラヤシへ転換を進めているという動きは、ヒアリング調査前には視野に入っていなかった事態であった。しかし、現地調査後にカカオ産地の農地利用形態の変遷に関する先行研究をサーベイしてみると、「他の作物からカカオへの転換」と「カカオから他の作物への転換」は、カカオ産業の特性や持続可能性を考える上できわめて重要な論点であること

が判明し、このことは以後の研究を深める上で大きな導きとなった。

第二に、カカオに関する統計データや文献資料の収集を、精力的に行なった。とくにインドネシアのカカオ生産に関しては、アジア経済研究所、東大東洋文化研究所、一橋大経済研究所、京大東南アジア研究所・経済学部などの図書館・図書室を訪問し、長期的な統計データ（オランダ植民地時代の 19 世紀末から 21 世紀の今日に至るまでの約 125 年分）を収集・整理したうえで、データベースを作成できた。

第三に、上記の二つの成果も踏まえつつ、カカオの生産・流通・加工・消費をめぐる国際的な諸動向と、そこに内包されている構造や幾つかの論点について、バリューチェーンの視角から、またコーヒーとの比較をふまえながら追究した。具体的には、以下の諸点を明らかにできた。（ア）カカオ豆の生産国といえばコートジボワールとガーナだと理解されがちだが、この両国が生産量でツートップになったのは比較的最近である。（イ）各国のカカオ豆生産量は激しく変動してきたが、こうした変動に共通する要因として、生産性にかかわる樹齢や品種の問題がある。（ウ）各生産国のカカオ豆の輸出のあり方は、自国消費量と磨砕産業の発展度合いによって異なる。（エ）途上国で主要な磨砕国が次々と登場しており、その原因はカカオの財としての独特の性質に求められる。（オ）先進国での磨砕量とその国の人口規模との関係は薄い。（カ）カカオの形態別の輸出比率は形態別の消費比率と大きく異なっており、またカカオの研究ではややチョコレート中心主義的な傾向がある。（キ）カカオの価格の安定性は自然的な生産条件と在庫率の高さから説明される。（ケ）コモディティとしての経済的重要性を未加工の段階ではかるべきかどうかには疑問もあり、コーヒーよりカカオのほうが経済的な重要性が高いとも見なしうる。

以上のうち、特に（エ）が重要である。このことから、近い将来にカカオ豆の過半が「北」ではなく「南」で加工されるようになり、そのバリューチェーンも旧来の南北問題の図式とは異なる様相を見せるようになる、と予想できる。

第四に、上記の第一・第二の成果に依拠しながら、インドネシアのカカオ産業が現在直面している危機と今後の変容の方向性を、歴史的視角から解明した。具体的には、以下の諸点を明らかにできた。（ア）インドネシアではカカオの生産量と単収が全国的に低下傾向にある。この直接的原因は、未熟な農園管理や樹齢の老化、そして病害虫と病気である。（イ）これらの改善に向けた国際的な取り組みもあるが、全体としては単収増や病害虫・病気の克服に至っていない。（ウ）こうした苦境の背景としては、政府の営農指導力の弱さのほか、Ruf が提示したカカオ生産の「ブーム&バーストのサイクル」がこの地にも及んでいることが挙げられる。（エ）歴史的にインドネシアのカカオ生産は「ブーム&バーストのサイクル」を幾度も繰り返しており、それらに共通する特徴も幾つか検出できる。（オ）カカオ産地の北スマトラ州から周辺地域――アチェ州など――への拡散・移動や、カカオから他の作物へのシフトも、このサイクルから読み解くことができる。また今後、主産地のスラウェシ島で同様の拡散・移動が起こりうると予想できる。（カ）インドネシアではカカオの加工産業が急成長しているため、未加工の豆の輸出が急減しており、これがカカオとチョコレートの国際流通に大きな影響を及ぼしている。

第五に、世界経済において最も重要な一次産品である石油に関しては、アジア経済研究所、JETRO ビジネスライブラリー、および東大工学部などの図書館・図書室を訪問して、埋蔵量などに関する統計データを収集し、長期データベースを作成したほか、海洋石油開発にかかわる資料を入手したことで、その史的展開の一端を明らかにできた。

第六に、同じく石油に関して、近年のシェール開発に関する諸議論のほか、USGS などによる資源評価の研究や、世界の石油開発プロジェクトの動向などを精査した上で、超長期的な石油の生産と消費の見通しについて分析した。また、石油採掘に関するイノベーションを概観することで、「人類にとって利用可能と見込みうる石油の総量」が今後も伸びる余地が十二分にあることを明らかにした。さらに、この分析を踏まえて、近未来に石油が枯渇するという誤った認識に基づく文明縮小論の問題点を検討した。

第七に、破綻国家の集中するアフリカ諸国における穀物生産と消費をめぐる諸動向にかかわって、現地の農業事情をふまえつつ、FAO によるデータの解析作業を行なった結果、幾つかの基礎的な知見と、今後の分析上の課題を得た。

総じて言えば、取り上げる予定だった一次産品自体については、相応に探究を深めることができた。またこの探究に即して、下に記すような論文を公表することもできた。ただし、本研究課題に取り組む過程において、これまで前提視していた条件をあらためて吟味し直す必要性が生じ、このことに時間を割いた結果として、特に石油に関するグローバル・ガバナンスの探究については課題を残した形となった。この点については、今後に取り組むべき研究課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① <u>妹尾裕彦</u>「『近未来石油枯渇論』の誤謬と

埋蔵量・可採年数・総資源量の真実――文明縮小論はなぜ不適切なのか？」『千葉大学教育学部研究紀要』第 63 巻、pp.317-332、2015 年、査読無。

② Yasuhiko SEO, "Decline or Revival?: The Crisis and Transformation of the Indonesian Cocoa Sector, 1887-2014", *Asian Profile*, 43(1), pp.51-66, 2015, 査読有.

③ 妹尾裕彦「バリューチェーンの視角からみる世界カカオ産業の構造と動態（1950-2012）――コーヒー産業との比較もふまえて」『千葉大学教育学部研究紀要』第 62 巻、pp.309-328、2014 年、査読無。

〔学会発表〕（計 2 件）

① 妹尾裕彦「衰退か、それとも復活か？――インドネシアにおけるカカオ産業の危機と変容、1887～2014」、日本国際経済学会・第 73 回全国大会、2014 年 10 月 26 日、京都府京都市（京都産業大学）。

② 妹尾裕彦「希望か、それとも絶望か？――アフリカにおける穀物生産および消費をめぐる現状とその 2100 年への展望」、日本国際経済学会・第 71 回全国大会、2012 年 10 月 14 日、兵庫県神戸市（甲南大学）。

６．研究組織

(1)研究代表者

妹尾 裕彦（SEO, Yasuhiko）
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：70451739